

福岡県米麦大豆生産改善速報 第6号

令和2年 1月20日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	11月20日～1月19日 (61日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	9.0	13.8	5.0	210	155
前年差(比)	+0.7	+1.1	+0.6	100%	199%
平年差(比)	+1.6	+1.9	+1.6	95%	125%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月20日播種、大麦:11月25日播種]

11月20日～1月19日の平均気温は平年より1.6℃高く、降水量は25%多く、高温多雨で経過した。出芽は、小麦で平年より1～2日早く、大麦で平年並～2日遅かった。1月20日現在、小麦の生育は、草丈が平年より14～50%長く、茎数が平年より17～28%多かった。大麦の生育は、草丈が平年より15～46%長く、茎数が5～14%多かった。葉数は、小麦で1.2～1.3葉、大麦で0.6～0.8葉多く、生育は進んでいる。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

ほ場の湿潤状態が続いており、今後も多雨が予想されることから排水対策が重要である。排水溝の溝さらえを行って排水口を整備し、地表水を排水する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝する。

(2) 踏圧・土入れ

踏圧・土入れは、土壌が乾燥した時点で、速やかに実施する。

踏圧は、倒伏防止、早期茎立ち抑制のため、節間伸長開始期前(踏圧の晩限:草丈20～25cm程度)までに3～4回実施する。生育が特に旺盛なほ場では、更に1～2回多く実施する。

土入れは、排水対策、倒伏防止および雑草防除のため、3月上旬までに2～3回実施する。

(3) 雑草防除

雑草の発生量はやや多い。雑草の草種や発生状況を観察し、選択性茎葉処理除草剤を適期に処理する。除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

1回目の追肥(分けつ肥)は、小麦・食料用大麦・裸麦では、基準量を1月下旬に施用する。ビール大麦は基準量を1月下旬～2月中旬に施用する。追肥に緩効性肥料を用いる場合も1月下旬に施用するが、施肥後に土入れを実施して確実に覆土を行う。

2回目の追肥(穂肥)は、食料用大麦・裸麦では2月下旬、小麦では3月上旬に基準量を施用する。なお、葉色が低下した場合は、2回目の追肥を早める。

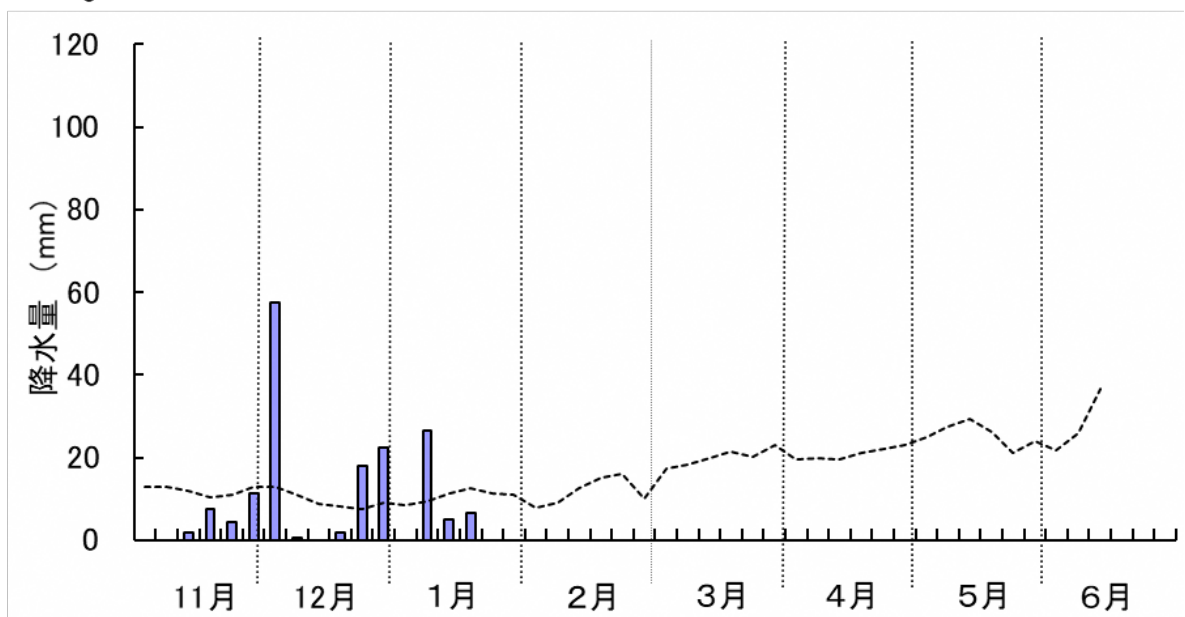
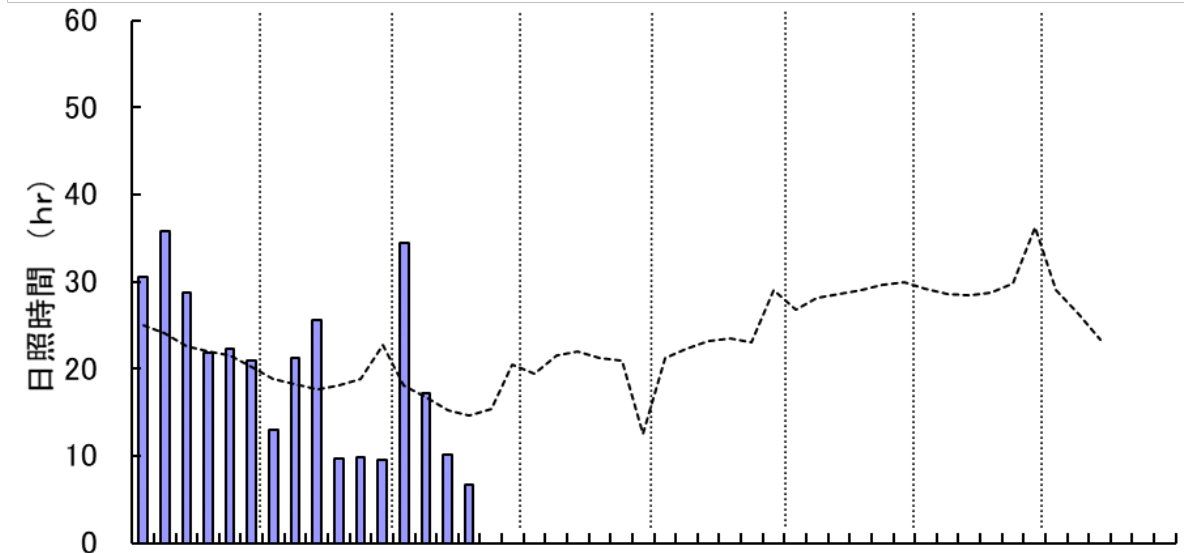
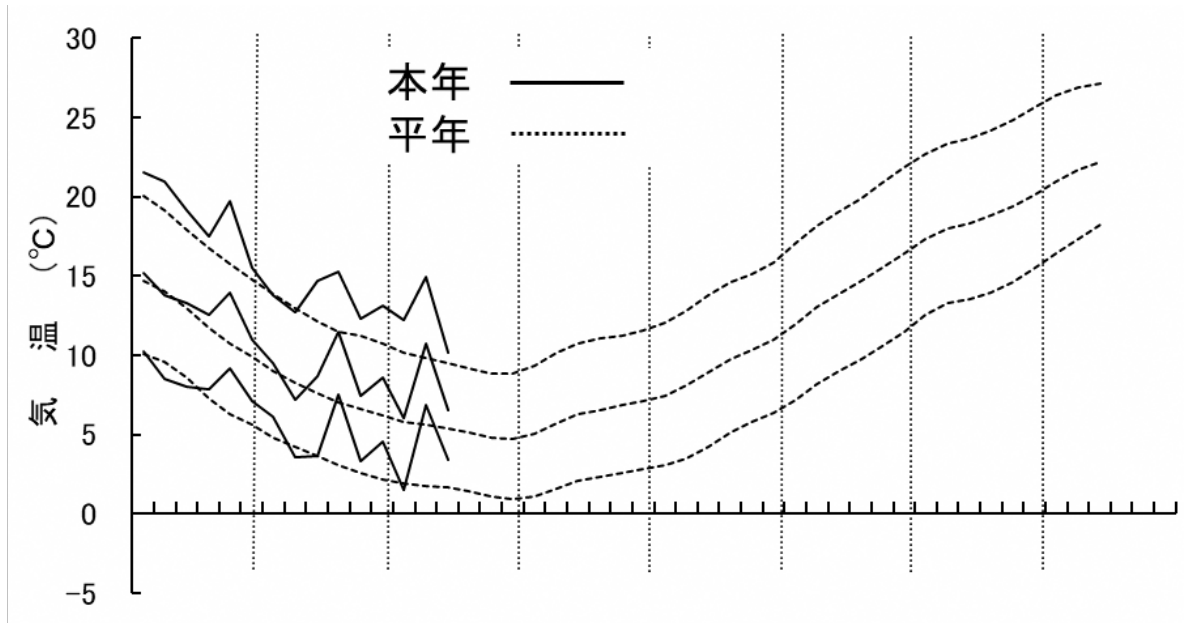
令和元年播 麦作況試験

(農林業総合試験場)

調査 場所	播種 期 月.日	品種名	年次	出芽期 月.日	1月20日		
					草丈 cm	茎数 本/m ²	葉数 L
農 産 部	11.20	チコグズミ	本年	11.28	18.5	511	5.2
			前年比(差)	+2	108	93	+0.8
			平年比(差)	-2	147	117	+1.2
	11.25	ほうしゆん	本年	12.8	13.1	415	4.4
			前年比(差)	+5	108	69	+0.1
			平年比(差)	+2	146	105	+0.8
筑 後 分 場	11.20	シロガネギ	本年	11.30	14.3	567	5.5
			前年比(差)	-1	105	135	+0.9
			平年比(差)	-1	114	128	+1.3
	11.25	はるしずく	本年	12.9	12.4	421	4.3
			前年比(差)	+5	90	84	-0.1
			平年比(差)	±0	115	114	+0.6
11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	11.30	18.2	507	5.3	
		前年比(差)	-1	102	130	+0.7	
		平年比(差)	-1	130	126	+1.2	

注1) 平年値はH21~30年播の平均値。

2) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：令和元年11月～平成2年6月)